

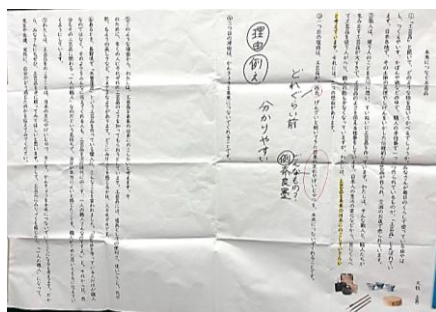
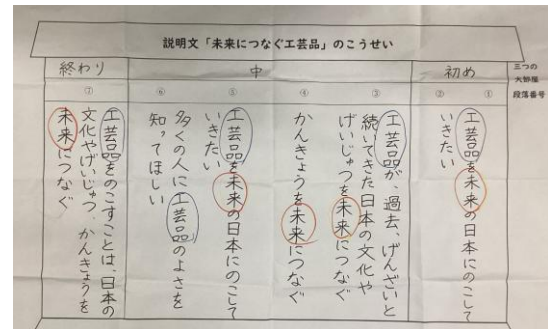
## 4年 「未来につなぐ工芸品」～「習得」編～

4年生では、中心となる語や文を見つけ、書き表し方を工夫して書く力の育成を単元のめあてとして学習計画を立てました。書き表し方の工夫として、「考え」を伝えるための具体的な「例」との関係性を捉えることができるようにしました。

単元の導入では社会科「特色ある地域の取組み」との関連を意識しました。社会科で学習した大阪府の工芸品である堺打刃物の作り方や工夫、職人が持っている思いなどを理解させることで、児童が地域ごとの工芸品に興味を持てるようにしました。また、実際の工芸品を廊下に掲示し、いつでも見たり触れたりできるようにし、工芸品の魅力である「手ざわり」や「もよりの美しさ」を実感できるようにしました。



次に、説明文の内容を詳しく読む学習に取り組みました。内容を整理する際には、「説明文の家」を使って文章のまとまりごとの大切な語や文をまとめました。そうすることで、まとまりごとの大切な語や文と要旨のつながりを視覚的に理解することができました。



さらに、みりよくを伝えるための効果的な論の進め方について学習する場面では、事実（例）と考えを色分けし区別してまとめました。また、もとの文章と、事実（例）の部分を意図的に抜いた文章を比較し、「もし、事実（例）の部分がなかったら？」と仮定して考えることで、例の効果や役割を感じることができるようになりました。児童からは「例があることで、そう考えた理由がよくわかる」「例があると、筆者の言いたいことが伝わってくる」などの声があがりました。

習得場面では、ただ説明文を読むのではなく、「魅力を伝えるための効果的な書き方に注意して読む」という目的を持ち、自分ごととして意欲的・計画的に学習に取り組むことができました。次回は、説明文を読んで習得したことを使って、実際に「工芸品のみりよく」について書く、活用場面についてお知らせします。